

再評価結果（令和7年度事業継続箇所）

担 当 課:道路局 国道・技術課

担当課長名：西川 昌宏

事業名	宮古盛岡横断道路 宮古～盛岡 (一般国道106号 田鎖墓目道路)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：岩手県宮古市田鎖 至：岩手県宮古市墓目			延長	7. 2 km
事業概要					
宮古盛岡横断道路は、岩手県宮古市から岩手県盛岡市に至る高規格道路である。 田鎖墓目道路は、宮古盛岡横断道路の一部を形成し、岩手県宮古市田鎖から宮古市墓目に至る延長7. 2 km、2車線の自動車専用道路である。					
R2年度事業化		R1年度都市計画決定		R4年度用地着手	
R5年度工事着手					
全体事業費	約300億円	事業進捗率	約6%	供用済延長	—km
計画交通量	10, 300台/日				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.01 (1.3) 1.4 (1.9) [2%] 1.7 (2.4) [1%]	EIRR (事業全体) 4.1% (5.4%)	総費用：(残事業)/(事業全体) 600/4, 818億円 事業費：589/4, 700億円 維持管理費：11/ 69億円 更新費：0/ 50億円	総便益：(残事業)/(事業全体) 684/4, 873億円 走行時間短縮便益：605/4, 456億円 走行経費減少便益：55/ 335億円 交通事故減少便益：24/ 83億円	基準年 令和6年
果分析	(残事業) 1.1 (1.4) 1.7 (2.1) [2%] 2.1 (2.6) [1%]	(残事業) 4.8% (6.1%)	感度分析 (事業全体) 交通量 B/C=0.9～1.1 (±10%) 事業費 B/C=1.00～1.02 (±10%) 事業期間 B/C=1.01～1.02 (±20%)	(残事業) 交通量 B/C=0.9～1.4 (±10%) 事業費 B/C=1.04～1.3 (±10%) 事業期間 B/C=1.04～1.2 (±20%)	
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の年間渋滞損失時間及び削減率 (渋滞損失時間：12.1万人・時間/年、渋滞損失削減率：約10割削減)					
②安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる (宮古市～岩手医科大学附属病院 現況：94分⇒整備後：91分)					
③災害への備え ・岩手県地域防災計画において、国道106号や宮古盛岡横断道路が緊急輸送道路（第1次路線）に指定					
他11項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見					
○岩手県知事の意見 1 「対応方針（原案）」案に対して異議ありません。 2 一般国道106号田鎖墓目道路は、自然災害に強い道路ネットワークの構築、宮古地区の救急医療活動の支援、重要港湾宮古港へのアクセス向上による物流路線としての機能強化などの効果が期待されることから、コスト縮減にも最大限に配慮しながら、事業の進捗を図るようお願いします。					
○以下の団体等から、田鎖墓目道路の整備促進について要望あり ・宮古市、岩手県商工会議所連合会					

事業評価監視委員会の意見

- ・対応方針（原案）の事業継続は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・令和2年度新規事業化、用地進捗率約39%、事業進捗率約6%（令和6年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない。

施設の構造や工法の変更等

- ・新技術の積極的な活用等により、コスト縮減に取り組む。

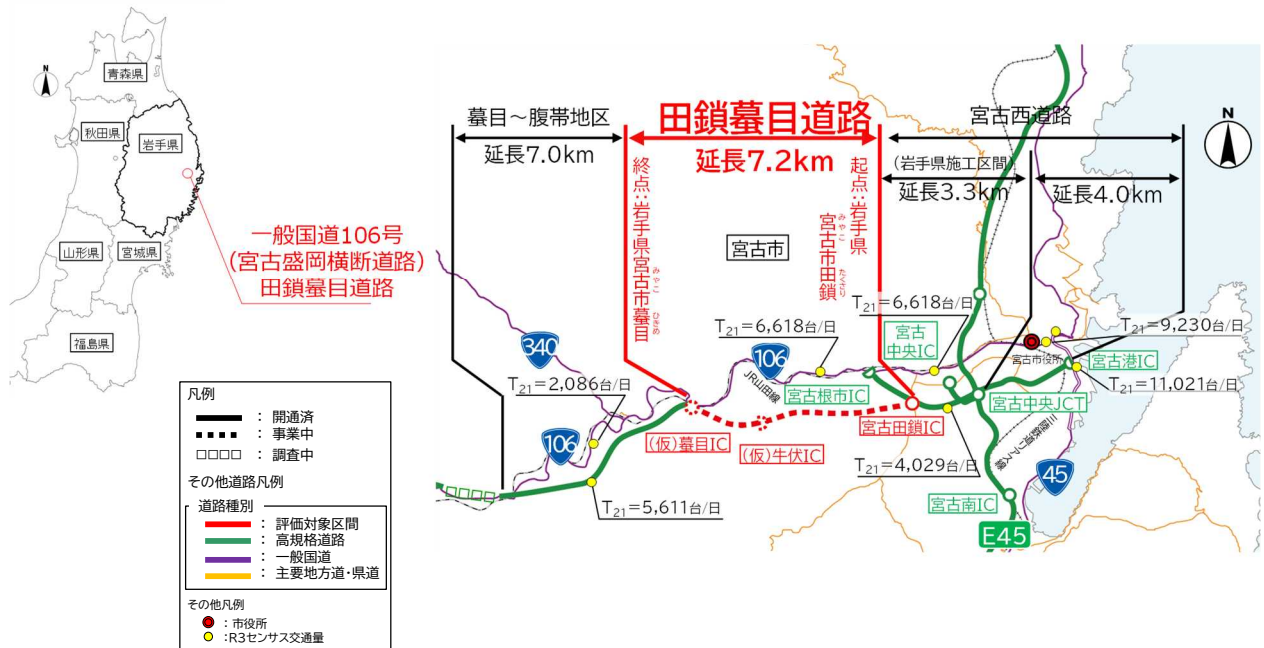
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・災害時の信頼性の確保、医療支援、地域産業支援・物流支援等のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率（4%）を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。（〔 〕内は社会的割引率の値）